

●テーマセッション(80分):社会構成主義の組織研究への応用 「伝統・ナラティヴ・共同体」

◎宇田川元一(埼玉大学大学院人文社会科学研究科 准教授)

奥本英宏氏(リクルートワークス研究所 副所長)

樋口あゆみ(東京大学大学院 総合文化研究科 博士後期課程)

ワークショップ形式

[概要]

社会構成主義やナラティヴ・アプローチの展開は、近年大きな広がりを見せています。日本でも、これらの考え方は企業の組織開発プラクティショナーを中心として徐々に広がりを見せできている現状です。しかし、ナラティヴや対話について、時に、コミュニケーションの手法やワークショップの方法として矮小化された理解も散見されています。

物語や物語る行為としてのナラティヴの研究を紐解くと、こうした個々の人間のコミュニケーションの問題を扱ったものではありません。むしろ、Bruner(1990)に代表されるように、我々の共同体の伝統を構成するものとしてのナラティヴが我々の語りを生み出し、その語りが共同体のあり方を変容させていくという、関係性にフォーカスしたダイナミックな構図を捉えようとするものとして理解するものであると考えられます。

そこで、本セッションでは、こうした共同体の伝統に埋め込まれた語りとしてのナラティヴの視点を学術的に明らかにすると共に、その具体的な実践として、企業において受け継がれる言葉が、いかなる伝統、いかなる文脈において語られたのか、また、それを受け継ぐことが可能なのかについて、言葉の生成と変容に着目し、考察を展開します。

[参加者へのメッセージ]

10月20日(日)11:00~12:20 開催(B会場:1-302)

本セッションは、報告者の解題のためのプレゼンテーションと、リクルート・ワークス研究所の奥本英宏氏によるリクルートの創業メンバーたちの語りとその文脈に関する考察の報告、加えて、パネルとフロアを交えたディスカッションで構成します。リクルートにおける語りと共同体としての組織の事例を踏まえつつ、ナラティヴが共同体の伝統を受け継ぎ、かつ、新たに組織を生成する上での中心的な概念であることを紐解いていきます。